

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	上川郡新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年11月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切に、町内会への参加や小学校とも交流があります。毎年、ホーム主催の焼肉パーティーを行い家族さんにも参加して頂き交流の機会にしています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は日高山脈が眺望できる自然豊かな地にある。当法人は多くの介護事業所を運営し、内部研修を開催して情報交換を行い、事例を共有しながら質の高いケアを心がけている。職員は利用者個々の健康状態を把握して、座ったままで出来る10分間体操「アイウベ体操」を毎日継続して、利用者の健康維持に効果を挙げている。地域とのかかわりを理念に掲げて、花見などの地域行事、小学校の運動会、文化祭に参加し交流している。また、事業所行事(焼肉会など)には、家族、地域住民が参加し、地域包括支援センターの協力を得て、小学校6年生対象「認知症キッズサポーター講座」授業に事業所職員が講師を引き受けるなど相互に交流しながら地域貢献をしている。運営推進会議メンバー等が夜間想定防災訓練に参加して災害時の協力体制に取り組んでいる。職員は、やさしく丁寧な言葉使いと接遇を心がけ、常にケアの向上を目指している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念をつくり、町内会に参加し、小学校行事にも参加している。	地域密着を意識した独自の理念をつくり、職員は理解し共有して、毎月一度の職員会議で理念を確認している。保育所、小学校、町内会、包括支援センター、運営推進委員との連携を常に図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、地域の花見やお祭りに参加し交流させていただいている。顔なじみの方も出来、交流を楽しんでいる。	町内会に加入して、花見やお祭りに参加している。生徒の認知症への理解が深まるように、新得小学校6年生を対象とする「認知症キッズサポーター講座」に講師を派遣して支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の小学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」に参加している。授業に参加するほか、児童を招き交流を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームの活動報告をし意見を頂いている。	包括支援センター、町内会、家族が出席して年6回開催。会議では看取り、防災訓練、地域交流、新得小学校認知症キッズサポーター講座協力などに関して意見をもらって、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の連絡調整や運営推進会議の参加も協力頂いている。包括支援センターが計画する認知症サポーター養成講座のお手伝いをさせていただいている。	入居希望者を紹介して貰ったり、事業所から定期的にホーム入居者の情報を提供したり、相互のやり取りがある。包括支援センターから「認知症キッズサポーター講座」授業の協力・支援要請を受けて、講師を派遣している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は(防犯上)夜間職員が1名になったときだけ行う。拘束は禁止行為として全員が認識している。	夜間は防犯上施錠しているが、そのほかの時間帯は自由に出入りできる。母体法人の研修会に毎回、職員を参加させて、その成果を職員会議で伝達講習して身体拘束をしないケアに努めている。その結果として拘束・虐待に関する職員の理解は浸透している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で勉強したり、わからない事は職員間で話し合うなどし意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人が活用できるよう、ご家族や関係者に相談していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前に面会し、パンフレットをお見せしホームについての説明をさせていただいている。面会後も電話等で不安の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんとは日常的にお話できる。ご家族とも面会時にお話し、大事な事はスタッフ会議などで話し合い反映させている。	家族の来訪が多いので、なるべく会話を心がけて意見要望を聞きとっている。意見を引き出すためには家族に情報伝える必要があると考えて、毎月のホームだよりに個別のコメントを書き添えて、家族に情報を伝えている。	家族、特に来訪が困難な家族が、利用者の様子・事業所の運営により関心が持てるように、毎月送付する「通信」に添えて、運営推進会議議事録・ヒヤリハット事例などの情報を提供することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月4日、5日に行う本社会議に出席し、ホームの意見や現状の報告を行っている。	会議などあらゆる機会に職員から主任やホーム長への提言がなされている。具体例は非常口に接続してテラスとスロープづくりで実現した。また「AED設置」と「入浴室への機械化リフト」設置の提言に関しては現在母体本部と折衝が進行中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフは評価され、表彰や昇格をすることがある。法人としても処遇改善に力を入れており、手当の増額など条件も変わってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は勿論、外部の研修など意欲のある人は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で交流する機会があるが、あまり活用できていない。相互交流など機会があれば参加していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面会を行うほか、ホームに来て頂くこともある。不安をうかがう中で、安心して入居できるよう準備につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談では疑問や不安をうかがう他、経験上どのように対応し解消できるかをお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談後にスタッフ会議で情報を共有し、必要なものを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来る事は支援し共同生活のメリットを活かしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さんと話し合い、共に支える関係が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢者芸能発表会、町内会行事に参加し、なじみの店に行ける事を大切にしている。	利用者は、高齢者芸能発表会など町内会行事に参加して浪曲などを一緒に楽しむことや、地元の商店に買い物に行くことで、地域住民との新たな馴染みの関係が徐々にできてきている。行きつけの美容室やかかりつけ医への受診を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関わりで、誤解やトラブルになる事もあるのでスタッフが間に入り配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まちでお会いすると気軽に声を掛けてくださる。退去後の相談にも応じている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	良いと思うことと、本人の希望が違う事もあるが出来る限り対応している。難しい事は説明を行っている。	日々の会話を通じて、入居者のしたいこと、望む生活を聞き取り、家族からも情報を得て、意向を把握している。実現が困難な場合はきちんと説明して、代替策で意向を叶えられないかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	習慣が続けられる。なじみのお店に行く事など配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌などに記録を残し、情報をスタッフ間で共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族さんにお話をうかがう。カンファレンスでスタッフが意見を交換し、現状にあったプランを作成している。	6ヶ月を基本として担当者が症状の変化に気がついたら家族との相談をしてから主任ホーム長へ報告、ケアマネージャーや看護師と相談の上、次回の職員会議で意見交換し、ケアプランが現状に即したものになるように変更をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が中心となり気づいた事を報告し合い、計画作成担当者を中心に見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	規定がない事案があっても対応可能か話し合い、必要に応じて協力している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とのつながりを大切に、楽しむ側だけでなくお仕事のほうでも参加している。(お祭りの出店や食べ物のごしらえ)			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでも契約している医療機関はあるが、ご本人のかかりつけ医を優先し対応している。なじみの先生に診ていただくことで安心感につながっている。	かかりつけ医との関係を大事にしている。家族が通院同行基本だが可能な限り職員同行に応じている。職員は積極的に利用者の体調変化について医師に説明報告をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は居ない為、何かあればかかりつけの病院に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	不安を与えないよう早期の退院に備えている。面会時に関係者ともよく相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合のホームとしての考えと出来る事を説明させていただいている。その上で、重度化に備えて家族の方には特別養護老人ホームへの手続きもすすめて頂いている。	契約時に重度化や看取りについて、事業所としてできることを説明して、理解してもらっている。現実化した時には、なるべく早い機会に家族と話し合いの機会を持って、医師の見解を聞きながら方針決定の相談にのり、特養の紹介や移転手続きへの協力などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で救命講習を受けている。新しいスタッフもいるので、消防署に相談の上で、定期的な講習を受講したい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの訓練を行っている。町内会の方にも協力をお願いし、関係を築いている。夜間対応の訓練も行いたい。緊急連絡網に町内会長さんにも入って頂いている。	年2回の防災訓練には消防署、地域住民、運営推進委員等の参加がある。特に今回は「夜間想定訓練」を実施して職員が一人で利用者を誘導する体験ができた事には大きな収穫があった。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気をつけて対応している。不快な思いをもたれない様、常に意識したい。	利用者が毎日、気持ち良く暮らしていけるように、個別の「名前の呼び方」などに気をつけている。一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伝えやすい言葉に気をつけている。人によっては選択肢をお示しし簡単に選択出来る様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に行うケアが多くなっている事から、急な希望には添えないが、予定を立てられるものは応じられるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室に行く事が出来ている。関心のない方にはスタッフがお手伝いさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、出来るだけ皆さんが食べていただけるものを提供している。また、食事の準備など可能な限り利用者さんで行っている。	事前の準備、調理、食後の片付けに参加がある。地域からもらった野菜(キウリ、枝豆、とまとなど)を調理するなど季節感ある旬の食材の配慮が出来ている。通院のついでに外食をしたり焼肉パーティを行っている。利用者と一緒に巻きすしやクリスマスケーキを作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前の食生活をうかがっている。水分量は記録し把握する事で、水分不足にならないよう配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない方には、歯磨き、義歯のケアを支援させていただいている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方には定時の確認をさせて頂き、利用者さんによってはトレーニングパンツの形状、質にこだわっている。ポータブルトイレを設置している方も居る。	排泄と水分摂取のパターンを記録して、適時に声掛けをしてトイレに誘導して、自立排泄を支援している。製品情報に気を配り、より使い勝手の良い尿漏れのしないトレーニングパンツを採用することで利用者の好評を得た。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態を検討し、個別のメニューを提供することもある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を使い、皆さんが入れるよう配慮している。入浴が億劫な方にも利用して頂けるように無理のない程度に声掛けを行っている。	入浴表を使って、入居者の清潔が保たれるように配慮している。入浴を嫌がる場合も無理強いはせず、時間や職員を変えて声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息されている。就寝時間はその人それぞれになっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の表をファイルしすぐに見られるようにしている。薬が変わったときは、受診記録や業務日誌に記載し変化の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事に参加したり、買い物、ボランティアの訪問などの楽しみがある。誕生日にはご本人と担当職員が外食に行き、好きなお店で食べていただく事も好評を頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小学校との交流もあり行事を見させていただくの楽しみにしている。家族さんと温泉に泊まりに行く方もおられる。バスを借りて皆で外食に行く事も楽しみにしている。	小学校の運動会や文化発表会に見学に出かけ、通院時に希望の場所に寄り道することがある。バスに乗って、皆でラーメンなどのお好みの外食をする機会を設けている。外出の時は天候を考慮して、利用者の服装に配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんとも相談の上、お小遣いを自己管理されている方もいる。支払いの際に見守る事で、安心して買い物を楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話できる方も居られるが、操作が苦手な方には対応している。難聴で電話の利用が困難な方にはスタッフが代わりに連絡をとり、家族の方に来て頂くこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝の清掃で不快の内容配慮している。設備は家庭的で扱いやすいものになっている。	職員が事務室や調理室から利用者の動向を一覧できるつくりになっている。職員の提案で増設したテラスとスロープは有益である。テラスは洗濯干し場としても有効に使っている。居室は全部南側になっていて、窓の外には花壇が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関等に座るところを設けている。主に、リビングや食卓が交流スペースになっている。独りを希望される方は居室で自分なりに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具などを持ち込んで頂いている。大事な写真、自宅で使用されていたパソコンを持ってこられた方もいる。	居室には仏壇や家族写真・パソコンなど馴染みの品を持ち込んでもらっている。毎月住職がお経をあげに来る入居者がいる。居室が住宅のような雰囲気になるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの部屋の前には、お名前と写真を貼りわかりやすい様配慮している。		